かわうそについて取材を受けました！

TBSテレビ「飛び出せ！科学くん」（毎週土曜19時～）からカワウソについての取材を受けました。11月に放送予定の特別番組のニホンカワウソのコーナーの中で、日本で最後に撮影された須崎市のカワウソの映像を使いたいというお話があり、あわせて映像の保管の仕方や須崎市にとってカワウソとは？と言った内容について取材を受け、本紙担当者が緊張の面持ちで対応している様子が撮影されました。

また、「まちかどギャラリー」に展示中のかわうその皮や新荘川も撮影され、本物の皮に大変驚かれていました。

番組放送はテレビ高知で11月27日（土）19時～の予定です。

しんじょう
2010.11.1
すさき・かわうそクラブ会報
―No.12―
発行：すさき・かわうそクラブ事務局

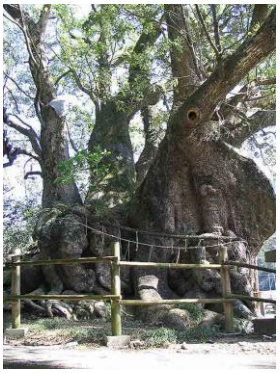
須崎の自然スポット（天然記念物・希少動物編）

■大谷の樟（クスノキ）

須崎市大谷地区の須賀神社境内にそびえる、推定樹齢二千年と言われる四国最大級の樟です。根元の周囲は約25m、樹高約25mの大木で、大正13年に国の天然記念物に指定されています。

また、主幹は空洞になっており、中に楠神様が祀られています。

【場所・アクセス】
・須崎市大谷地区
国道56号線から、県道23号線を浦ノ内方面へ。途中押岡地区より「野見」という看板を右折。（道の駅より車で約15分）



■桜川河口の干潟

桜川河口に広がる小さな干潟です

「すさき野外博物館」ではお馴染みになっている桜川河口の干潟です。干潟には「シオマネキ」や「トビハゼ」といった希少動物をはじめ、様々なカニや魚が生息しています。

特に「シオマネキ」については、県内でも生息が確認されている場所が少なく、この干潟を保護地区に指定して、カニや魚などの生きものが生息しやすい自然環境を守ろうという動きもでてきています。

シオマネキ
片腕だけ大きなハサミが特徴です

【場所・アクセス】
・須崎市押岡地区桜川河口
JR多ノ郷駅より南へ徒歩5分。

須崎の自然 こぼれ話

今年度末、中土佐町まで延伸予定の高知自動車道の新荘川にかかる橋にまつわるお話をしたいと思います。

▽イドミミズハゼ

新荘川の河口付近には、高知県の絶滅危惧IB類に指定されているイドミミズハゼが生息しています。名前の通り井戸の中や、湧水など光のあまり当たらない所に住んでおり、そのため眼が退化して小さくなっています。

「提供：四国自然史科学研究センター」

ミミズハゼに似ていますが、前述の小さな眼と、オレンジ色の体が特徴になっています。

新荘川河口では、砂礫の底に生息しています。

▽橋脚のない橋

新荘川河口には、この貴重なイドミミズハゼが生息していることから、高速道路の建設にあたっても、河口の自然環境をできるだけ変えないよう配慮され、橋は橋脚のないアーチ橋となっています。また工事に際しても、川に重機などの機材を入れない工法で行ったということです。

【場所】
・須崎市新荘川河口の橋梁
道の駅「かわうその里すさき」すぐ

新荘川河口に架かるアーチ橋

記事掲載情報を募集します！

「しんじょう」で取り上げてもらいたい生きものや、意外と知られていない須崎の自然についてのエピソードなどがありましたらお知らせ下さい。
Mail アドレス：
kikaku2@city.susaki.kochi.jp

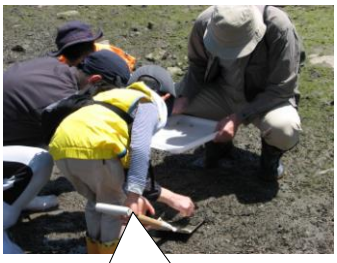
すさき野外博物館

須崎市では、かわうそのまちづくり事業の一環として、ＮＰＯ法人四国自然史科学研究センターとともに「すさき野外博物館」を開催しています。

本年度は、３回開催し、市内外から多くの方に参加をいただきました。

干潟の生き物

・講師…町田吉彦氏
四国自然史科学研究センター理事長（高知大学理学部教授）



５月15日（土）に桜川河口の干潟にて「シオマネキ」や「トビハゼ」など、干潟に暮らす生きものの観察会を行いました。

この干潟について長年調査をされている町田先生から、干潟の環境や生き物について講演をしていただいた後、実際に干潟に入り、日頃はあまり見ることのない貴重な生きものについて観察を行いました。

▽**現れた！**

「シオマネキ」が現れると、参加した小さな子どもたちは「ハサミが大きい！」と大興奮。他にも捕まえたカニやエビについて、先生にしきりに質問をしていました。

また、参加者からは「須崎にこんな場所があるとは知らなかった」、「自然について考える良い機会になった」等の意見を聞けました。

ツバメのねぐら入り

・講師…谷地森秀二氏
四国自然史科学研究センター長（農学博士）

８月14日（土）に桐間池のヨシ原でツバメのねぐら入りの観察会を行いました。

18時から観察を行っていましたが、なかなかツバメの姿を見ることができません。参加者も少々待ちくたびれ気味に…。

▽**ついに！**

19時を過ぎて辺りが暗くなってくると、どこからともなくツバメの集団が飛来してきます。見る見るうちにその数は増え、空一面数百羽のツバメの群れで覆いつくされました。

何周か空を旋回したあと、ヨシ原の枝にとまります。講師の谷地森さんの説明によると、軒下の巣とは違って、ヨシ原では巣をつくらず直接枝で夜を過ごすとのことでした。

ヨシの枝にとまるツバメ

サシバの渡り

・講師…谷地森秀二氏

・ツバメの生態

春先によく家の軒先等に巣を作って、子育てをしている姿を見かけるツバメですが、いつの間にかいなくなっていますよね。冬になれば越冬のために南方に渡っていくツバメですが、巣からいなくなったあと、すぐに南方に渡るのではなく、このヨシ原でしばらくの間過ごすのです。

10月２日（土）に虚空蔵山山頂にてサシバの渡り観察会を行いました。

日本野鳥の会が、数日前に800羽を観測したという情報を事前に得ていたので、期待をして観察会に臨みました。

▽**しかし…**

曇りという天気が影響してか、サシバの姿はなかなか現れません。その後粘り強く待ち、なんとか２羽の渡りを観察できましたが、期待が大きかっただけに少し残念な結果となりました。観察会といえども、やはり自然相手ということを強く感じました。

・サシバの渡り

タカの一種であるサシバは日本各地に繁殖地を構え、９月から10月にかけて南方へ渡っていきます。午前中に愛知県の伊良湖岬付近で観測されたサシバが、同日の午後には、この虚空蔵山を通過するとのことで、その移動速度は驚くものです。

すさき野外博物館（お知らせ）
【日時】来年２月26日（土）
【テーマ】水生昆虫の観察
詳細は広報すさき２月号で

「すさき・かわうそクラブ　会員募集中」

「すさき・かわうそクラブ」では、かわうそのまちづくりを応援してくださる方を募集しています。
詳しくは、事務局までお問合せください。
また、かわうそのまちづくりに関するご意見・ご質問などもお待ちしております。

（事務局）　須崎市企画課　〒785-8601　高知県須崎市山手町１－７
ＴＥＬ　0889-42-5691　ＦＡＸ　0889-42-7320
Ｅ-ｍａｉｌ　kikaku2@city.susaki.kochi.jp